

午後Ⅱ試験

問1

問1では、オートリース会社の車両保守業務を題材に、データベースの実装・運用について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1では、(2)(c)の正答率が低かった。本文中に示された、異常終了後のRDBMS再開始の具体的な処理内容に着目していない解答が散見された。本文中に示された条件をきちんと読み取り、正答を導き出してほしい。使用するRDBMSの仕様を正しく把握することは、見積りをする上で非常に重要である。

設問2では、(1)(b)、(c)の正答率が低かった。業務処理の特徴を理解し、同期の単位を見定めた上でトランザクション設計を行うよう心掛けてほしい。(3)では、デッドロックの発生状況を理解していない解答が散見された。デッドロックに関する受験者の知識がまだ不十分であることの結果と思われる。

設問3では、(1)キ〜ケの正答率が低かった。ログによるロールフォワードの際にも行の追加と更新とではページアクセスの仕方が異なることを理解していない受験者が多かった。また、(2)の正答率も低かった。データベースの設定変更によるリソース不足などの障害を未然に防ぐように注意してほしい。

問2

問2では、車体部品メーカーの資材調達業務を題材に、概念データモデル及び関係スキーマについて出題した。全体として正答率は平均的であった。

(1)では、資材と定量発注品との間のサブタイプを表すリレーションシップの正答率が低かった。(4)では、又の正答率が特に低かった。両者の正答率が低かった理由は、状況記述の中に解答に直結する記述がなかったからと考えられる。

本問は、状況記述から解答に該当しそうなものを検出する作業能力を評価するものではなく、前後関係を含めて、エンティティがどのような位置づけであるか、どの業務事象においてどのようなデータがどのように記録されるべきか、洞察する能力を評価するものである。

日常業務での実践において、個々のエンティティの位置づけを明確化した上で、業務事象ごとに概念データモデルのどの部分がどのように成立するかの視点で、実務を洞察してモデル化する習慣を身に付けてほしい。